

# みなみたま

## 会報「みなみたま」第17号

発行 南多摩同窓会あかね会  
 発行者 浜中賢司  
 〒192-8562 東京都八王子市明神町 4-20-1  
 東京都立南多摩中等教育学校内  
 URL: www.akanekai.org/  
 Email: mail@akanekai.org



南多摩中等教育学校 東館

## 目次

### 【ご挨拶】

- 南多摩の名前の重さ (浜中賢司) ..... 2
- 問いを立てる力 ~伝統が照らす未来~ (富川麗子) 2

### 【学校の動向】

- 令和7年度の取組 (山下 創) ..... 3
- 南多摩中等教育学校卒業生の進路 (小出千亜希) .. 5

### 【新入会員紹介】

- ありがとう南多摩での6年間 (王 嘉栄・福代亜由美) 6

### 【文化祭参加】

- 令和7年「あかね屋」活動報告  
(高田悠真・伊東明希) ..... 7

### 【卒業生訪問】

- 世界ウルトラマラソン日本代表の福元翔輝さんに聞く  
(入沢修自) ..... 8

### 【歴史発見】

- 問いを立て、自ら学ぶ  
~ホームプロジェクトの精神が紡ぐ八十年~  
(富川麗子) ..... 10

### 【会員だより】

- 還暦！ 横関君のお店で同窓会 (小泉(吉沢)明代) 12
- フォト短歌集「花のものがたり」を出版  
私には過ぎたる女房でした (木崎 勇) ..... 13
- 大和撫子(昭和38年卒)発見！ (井上 務) ..... 14
- 舞踊部からキルト・細密絵画へと  
(早川(水野)ふみ代) ..... 15
- 南多摩高校の思い出と家族の介護  
(本木(山崎)貴久江) ..... 16
- 南高体操、個人メドレーとニックネーム  
(山根(山田)博史) ..... 17
- 建築家として貢献できることがあればと  
(虎尾亮太) ..... 18
- 新潟の地で受け継ぐ「南多摩イズム」 (大野 純) 19
- 南高男子バスケット部最長老OB会続報 (春日幸雄) 20
- 【お知らせ】  
同窓会の活動及び母校支援について ..... 20  
「令和8年度南多摩同窓会あかね会定期総会」について 24

## ご挨拶

## 南多摩の名前の重さ

南多摩同窓会あかね会 会長 浜中 賢司

令和8年の会報発行にあたりご挨拶申し上げます。同窓会の目的は改めて申すまでもなく同窓生の親睦が大きな目的であります。最近、他の高等学校の同窓会が解散した話題もありました。一般に、どの学校も各年代では多くの皆様が絆を深めるために、クラス会などの活動は活発に行われているようです。私たちのあかね会でも会報のなかで多くの方々からクラス会の開催や近況などの記事を提供していただいています。やはりこうした記事を拝見するたびに、人生の中で10代後半の高校生活は印象の深い時期なのだろうと感じます。

私の年代の高校生活は3年間ですが中等教育学校になり、同じ仲間と6年間共に学び、学校生活を共有して卒業する現役の皆様は、将来もっと多くの交流が待っているのではないのでしょうか。中等教育学校になってから今



年の卒業式が11回となるということです。最初の卒業生は20代後半になっています。社会人になり人生の楽しさや厳しさも経験している中で、南多摩の仲間を思い出すこともあるかもしれません。また、現役の皆様の進学状況や学校活動への参加など会報などでお知らせすることで、学校とのつながりを感じて頂けることと思います。あかね会の活動はこうした多くの情報を提供し、同窓生の親睦が深まることを大切にして続けていきたいと思っています。

私事になりますが、会長を務めさせてもらってから、思わぬ方から突然、「私も南多摩なんですよ」などと声を掛けられ、そのたびに南多摩の名前を思い出し、名前の重さや伝統の重さを実感しています。あかね会の歴史は117年あり、現在私たちがあかね会の活動を引き継いでいますが、これまで続けてこられたのは多くの先輩方の南多摩への想いがあったからこそだと改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

令和8年3月

## 問いを立てる力 ～伝統が照らす未来～

南多摩中等教育学校 校長 富川 麗子

あかね会の皆様には、日頃より本校の教育活動に御理解と御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年4月に校長として着任し、本会報誌では初めて御挨拶を申し上げます。

着任からちょうど一年が経ちました。校舎を歩き、授業を参観し、生徒たちと言葉を交わす日々の中で、学校の隅々にまで息づく伝統の重みを実感しております。それは、本校を巢立たれた先輩方が長い歳月をかけて積み重ねてこられた歴史の厚みにほかなりません。あかね会の皆様からは、部活動や学校行事等、多方面にわたる温かいお力添えを頂戴しております。心より感謝申し上げます。

さて、本校は「心を拓く」「知を極める」「体を育む」の教育目標のもと、心・知・体の調和から生まれる人間力を基盤に、イノベティブなグローバルリーダーの育成に取り組んでおります。

今、社会は急速に変貌を遂げております。人工知能や



ロボットが私たちの暮らしに溶け込み、仕事の在り方が変わり、世界中の人々とオンラインでつながることが日常となりました。こうした変化の只中であって最も大切なのは、自分で考え、仲間と協力して行動できる力であると考えます。

本校が教育の柱に据える「探究活動」は、まさにその力を養う営みであります。自ら問いを立て、調べ、考察し、自分なりの答えを見出していく。人工知能が答えを提供できる時代だからこそ、人間が「何を問うか」こそが問われているのです。

本誌（「問いを立て 自ら学ぶ」）でも御紹介しております家庭科の課題解決学習から始まった、本校の探究の姿勢は開校当時から脈々と受け継がれてきたものであります。伝統の中にこそ、未来を生き抜くヒントがあると私は考えております。

あかね会の皆様が守り育ててこられた伝統と誇りを礎に、生徒たちが新たな時代を力強く切り拓いていけるよう、教職員一丸となって教育活動に邁進してまいります。変わらぬ御支援と御指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 令和7年度の取組

南多摩中等教育学校 後期課程副校長 山下 創

あかね会の皆様におかれましては、日頃より本校教育活動への多大なる御支援・御協力を賜り、心より御礼申し上げます。令和7年度も、探究活動を柱とした特色ある教育の充実をめざし、教職員一同取り組んでまいりました。今後とも本校の教育方針に御理解を賜り、更なる発展に向けて変わらぬ御支援をいただければ幸いに存じます。

## 1 母校支援をいただいた取組

### (1) 部活動支援

毎年、関東大会以上に出場を果たした部活動等に対し、御支援をいただいています。令和7年度も多くの部が関東大会、全国大会等に歩を進めました。次の部活動に御支援いただきました。あかね会からの部活動支援は、生徒たちの励みになっております。

太鼓部

- ・成田太鼓祭 ・全国高等学校総合文化祭



- ・第15回関東地区高等学校和太鼓選手権  
南多摩フィルハーモニー部

- ・全国大会

前期科学部

- ・第13回科学の甲子園ジュニア全国大会

後期水泳部

- ・関東大会 ・全国大会 ・国民スポーツ大会

後期陸上競技部

- ・関東大会 ・関東新人大会

- ・JOCジュニアオリンピックカップU18

かるた同好会

- ・全国高等学校総合文化祭

バドミントン (前期)

- ・関東大会

令和8年度については、現在までのところ、太鼓

部が、秋田県で行われる全国高等学校総合文化祭への出場を決めております。それ以外の部活も上位大会への出場を目指し、日々努力をしています。引き続き、応援をよろしくお願いいたします。

また、令和7年度は、部活動の夏季合宿に伴い、コーチ補助費を次の部活動に御支援いただきました。

- ・太鼓部 ・後期女子バスケットボール部

### (2) 進学指導支援

PTAおやじの会の皆様の御協力により、夏季休業中の閉庁日に八王子市クリエイトホールの会議室等を活用し、後期生対象の自主学習スペース「Study Room」を開設していただきました。令和7年度は2日間で延べ12名の生徒が利用し、猛暑の中、涼しい空間で勉強に励むことができました。費用面で御支援いただき、深く感謝申し上げます。

### (3) 学校行事支援

「南魂祭」の一つである「合唱祭」では、審査員の方の昼食費を御支援いただきました。また、1月に昭和記念公園で開催されたマラソン大会において、サポートランナーを務めてくれた6年生等の入園料と交通費の御支援も賜りました。

### (4) 卒業証書等フォルダー

11期生及び14期生にフォルダーを御寄贈いただきました。14期生向けの修了証書フォルダーについては、証書サイズに合わせたリニューアル版の御寄贈となりました。

### (5) 東京都立大学論文指導

東京都立大学論文指導に4名が参加をし、都立大学の先生に探究の論文指導をしていただきました。本人の努力と大学の先生方の御指導のおかげで、素晴らしい論文を仕上げることができました。この4名の生徒は都立大学探究発表会にも参加し、大勢の人たちを前に立派に探究の成果を発表しました。

## 2 学校行事

### (1) 宿泊行事・校外学習

令和7年度入学生からの宿泊研修旅行は、1・3・4学年で実施しています。

1学年：地域探究に関連し、高尾・多摩・八王子地域で実施

3学年：「モノ語り」探究に関連し、関西地域で伝統工芸体験等を通じた勤労観・職業観の育成

4学年：海外研修（ホームステイ・学校間交流等を含む異文化理解プログラム）

令和7年度については、1学年が高尾わくわくビレッジ、3学年が奈良・京都、4学年がオーストラリア（シドニー）での研修旅行を実施しました。



また令和6年度に宿泊研修を実施できなかった2学年は、代替行事として、御殿場青少年交流の家と河口湖での研修旅行を実施しました。

校外学習は1年生から6年生までの全学年で実施しました。

### (2) 南魂祭

6月の体育祭は、令和7年度も富士森公園陸上競技場において実施しました。会場の収容人数による制限はありましたが、保護者の皆様にも御観覧いただくことができました。



体育祭の2週間後に、J:COMホールで合唱祭が開催されました。こちらも多くの保護者にお越しいただき、盛大な合唱祭となりました。

9月の文化祭も、保護者はもちろんのこと、南多摩を志望する小学生から一般の方まで、本当にたくさんの方に御来場いただきました。「あかね屋」は10期生が計画・運営の中心となり大盛況でした。在校生を含め、多くの方に同窓会を知っていただく機会にもなりました。あかね会役員の皆様にも御来校いただき、誠にありがとうございました。

### (3) 八王子市との取組

2月、八王子市学園都市センターにて、八王子市主催令和7年度「高校生によるまちづくり提案発表

会」が開催され、本校の4・5年生10名が参加しました。また運営として5年生6名が司会進行などを担いました。

## 3 探究活動を支える指定校事業及び助成

本校の特色ある教育活動が実現には、あかね会の母校支援や様々な指定事業や助成が欠かせません。令和7年度は、次の指定事業等にお力添えいただきました。

### (1) 東京都教育委員会指定事業

#### ① Tokyo Metropolitan Global Education Network School Premier 20 (GE-NET20) (旧 Global Education Network20)

引き続き、イタリアデララッカ高校との協働研究「Passoプロジェクト」、ベトナムチューバンアン高校との国際交流プログラム、台湾建城国民中学とのオンラインセッションなど、オンラインを活用したグローバルな学びの場を提供することができました。

また令和6年度にイタリアデララッカ高校と姉妹校協定を結びました。3月にはデララッカ高校の教員が来校し、本校生徒への授業実践や本校教員とのディスカッションを行う予定でしたが、イラン情勢の影響で中止となりました。令和8年度9月にはデララッカ高校の生徒が来校予定です。本校生徒の家庭にホームステイをし、学校での授業や部活動への参加を通して、交流を深めます。

#### ② 探究的な学び推進事業

「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な学びにおいて、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る本事業の指定を受け、外部人材を活用した指導体制の確立し、充実した探究的活動を実施することができました。

### (2) 文部科学省指定事業

#### 高等学校DX加速化推進事業 (DXハイスクール)

令和6年度から指定をいただいています。本事業は情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断で探究的な学びを強化する学校などに対して、必要な環境整備の経費を支援してくださるものです。令和7年度は、探究活動に用いる物品や冊子などの成果物の作成に役立てるレーザーカッターの整備をしました。

南多摩中等教育学校では、生徒一人一人にとって豊かで意義ある学びが実現できるよう、教育活動のさらなる充実を図ってまいります。

あかね会の皆様におかれましては、今後とも本校への変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、あかね会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

# 南多摩中等教育学校卒業生の進路

南多摩中等教育学校 進路部主任 小出 千亜希

今年卒業した11期生は、新型コロナウイルス感染症の影響により、入学式の中止に始まり、オンライン授業や三大行事・部活動の制限など、困難な状況の中で学校生活をスタートさせましたが、そのような状況を乗り越え、後期課程では実に活動的に学校生活を送りました。

大学入学共通テストには全員が出願し、無事に受験を終えることができました。その後の個別入試では、国公立大学に62名が合格し、現役合格率は42.5%となりました。後期日程での合格者は13名にのぼり、最後まであきらめずに努力を重ねた、粘り強い学年であったことがうかがえます。難関国公立大学については、東京大学に3

名、一橋大学に2名、東京科学大学（理工学系）に4名、同大学（医歯学系）に2名が合格し、計11名の生徒が難関国公立大学への進学を果たしました。

また、LWPや学校内外におけるさまざまな活動の成果を生かし、総合型選抜・学校推薦型選抜でも多くの生徒が合格しました。特に今年度は、北海道大学フロンティア入試、東京農工大学SAIL入試、お茶の水女子大学新フンボルト入試、東京都立大学ゼミナール入試、東北大学A0Ⅱ期など、特色ある入試方式による合格が多く見られました。南多摩中等教育学校での6年間にわたる探究の積み重ねが、こうした成果につながっています。

## 11期生（2026年卒）合格実績（2026年3月24日現在）

### 1 国公立大学（現役のみ）

北海道大学	3
北海道教育大学釧路校	1
帯広畜産大学	1
室蘭工業大学	1
東北大学	5
筑波大学	2
宇都宮大学	1
埼玉大学	1
千葉大学	2
お茶の水女子大学	2
電気通信大学	4
東京大学	3
東京外国語大学	1
東京科学大学(理工学系)	4
東京科学大学(医歯学系)	2
東京農工大学	6
一橋大学	2
横浜国立大学	4
新潟大学	1
名古屋工業大学	1
大阪大学	1
山口大学	1
九州大学	1
東京都立大学	10
会津大学	1
三条市立大学	1
計	62

42.5%

上記のうち医学部医学科

--	--

### 3 海外大学（現役のみ）

University of Bristol(イギリス)	1
University of Arkansas(アメリカ)	1
計	2

### 2 私立大学（現役のみ）

早稲田大学	26
慶應義塾大学	18
上智大学	21
東京理科大学	23
明治大学	43
青山学院大学	20
立教大学	6
中央大学	28
法政大学	35
成城大学	2
成蹊大学	8
明治学院大学	5
武蔵大学	3
芝浦工業大学	16
日本大学	12
東洋大学	14
駒澤大学	7
専修大学	4
津田塾大学	3
東京女子大学	7
日本女子大学	3
東京農業大学	4
工学院大学	16
東京都市大学	9
東海大学	5
順天堂大学	3
北里大学	8
東京薬科大学	9
星薬科大学	3
昭和医科大学	3
日本赤十字看護大学	2
<b>私立大学総計※</b>	<b>452</b>

合格者数：複数大学の合格者は重複計上

※掲載大学以外の合格者を含む

注）11期生（現役のみ 卒業生146名）

## 新入会員紹介

## ありがとう 南多摩での6年間

令和8年卒(中等11期生) 王 嘉栄

私が南多摩で過ごした6年間は、多くの仲間を支えられ、自分1人では決して最後まで走りきることはできなかった。日々の学習から行事、部活動に至るまで、仲間と過ごした日々は記憶の中に深く刻み込まれている。

この6年間、私が最も時間をかけて取り組んだのは太鼓部の活動だ。私は音感があまりなく、音の精度を上げていく練習についていくのがとても大変だった。部活のことで悩み、苦しいときがたくさんあったが、周りの人に支えられ、もがき続けながらも引退までやり切った経験は、これから先の人生において非常に大切な財産になるだろう。

また、生徒会活動にも4年間取り組んだ。憧れの気持ちから飛び込んだこの活動を通じて得られた学びは多かった。組織を運営すること、計画を円滑に進行させること、周囲と協力して業務に取り組むことなど、自分1人では実現できないことを経験することができ、とても感謝している。

私は元々、完璧主義な性格で、本当なら、自分が人生の主役となり、何事もそつなくこなせるような自分になりたいと考えていた。しかし、周りの才能あふれる優秀な仲間たちと共に過ごしていく中で、そのように考える

より、むしろお互いが高めあっていけるような関係を築いていくことがとても大事であると気付けた。

入学した頃は不安でいっぱいだったが、多くの先輩、同輩、後輩たちとの出会いに加えて、先生や保護者、あかね会の方々など、多くの人の支えにより充実した6年間に過ごせた。



八丈島合宿

正直まだ書きたいことはたくさんあるが、字数制限が来たのでこのあたりで。支えてくれたすべての皆さんにありがとう。

令和8年卒(中等11期生) 福代 亜由美

私の南多摩生としての思い出は家に大きな段ボールが届いたところから始まりました。緊急事態宣言が発令され、入学式がなくなり、家に自宅学習のための教材が届きました。今では懐かしい笑い話ですが、当時中学生になったばかりの私は悲しさと不安でいっぱいだったことを覚えています。

しばらくして学校に行けるようになり、クラス全員で授業も受けられるようになりました。今思えば11期生のはじまりはなんともあいまいなものだったと感じます。

そんな始まりもあってか、11期生はどこか物静かな学年という印象がありました。私もそのうちの一人で、自分を表現するのが苦手でした。そんな自分が変わったのは本音をぶつけられる仲間と出会ったからです。

私は前期、後期ともに体育祭実行委員会に所属し、5年生では本部として体育祭の運営に努めました。はじめてのことばかりでうまくいかないことが多く、他のメンバーと衝突することもありましたが、そのたびに真剣に話し合いを重ね、体育祭を成功させることができました。

本音を話せる人がいることで、自分を認めてくれた気がしてありのままの自分に自信が持てました。



富士森競技場での体育祭

静かだった11期生も今では表情豊かになりました。うるさくなりました。それはそれぞれが私と同じように大切な仲間に出会えたからです。この思い出があれば今よりも成長できそうです。

6年間ありがとう。

## 文化祭参加

## 令和7年「あかね屋」活動報告

令和7年卒 高田 悠真・伊東 明希

令和7年9月6日、7日と2日間にわたって開催された文化祭「南魂祭」において、10期生有志が飲食模擬店「あかね屋」を出店いたしました。あかね会をはじめとする多くの方々のご支援のおかげもあり、両日を通して大いに賑わいました。

あかね屋は、虹の架け橋下とランチルームの2か所に出店し、お弁当やおにぎり、ペットボトル飲料を販売しました。虹の架け橋下ではテントを設置し、冷たいドリンクを提供しました。ランチルームでは、3種類のお弁当と6種類のおにぎりの販売を行いました。

昨年度に引き続き、お弁当は「ごきげんランチ」様と「アツアツ弁当ミサワ」様からそれぞれ3種類ずつ仕入れ、2日間でラインナップを替えての提供となりました。在校生や教職員の方々に加え、外部から来られたお客様にもご購入いただき、両日とも昼過ぎには完売いたしました。特に、「ごきげんランチ」のトロ玉カツ煮と「ミサワ」の豚焼肉丼は、その見た目とボリューム感から大変な人気で、店頭に並んでから1時間もすると完売となるほどの人気ぶりでした。

両日ともよく晴れて真夏を記録したため、ドリンクも途切れなくお買い求めいただきました。昨今の物価高騰の影響もあり、昨年度と同じ値段での販売とはなりませんでしたが、しかし、大手ネット通販サイトを利用して仕入れを行ったり、飲料の品目を増やしたりと工夫を凝らし、必要数をそろえることができました。また、お弁当やおにぎりとのセット販売の需要に応え、ランチルームでもお茶の販売を行いました。



1日目の終了後に行われた中夜祭では、在校生向けに体育館棟2階でドリンクを販売しました。通常販売の価格から値下げし、ワンコインで購入できるようにしたのが功を奏し、スムーズに商品の受け渡しをすることができました。微力ながら、在校生の熱中症予防に貢献できたのではないかと思います。



今年度は、近隣の都立高校と文化祭の日程が重なっていたこともあってか、見込みほど売り上げが伸びず、ペットボトル飲料は多くが売れ残る結果となってしまいました。しかし、体育館演劇の列に並んでいるお客様から注文を取ったり、正面玄関で出張販売を行ったりして工夫を重ね、何とか赤字になる事態は回避することができました。先輩方からの引き継ぎはあったものの、飲食販売の難しさを痛感いたしました。

中等部4年時に飲食販売の経験はあったものの、自分たちの手で企画・発注、その他の調整を行うのは初めての経験で、戸惑うこともありました。しかしながら、10期の仲間をはじめ、多くの皆様のお力添えにより、無事に文化祭当日を迎えることができました。来年度については、今回の反省をふまえ、さらなる盛況となることを願っております。



結びになりますが、「あかね屋」の運営をご支援していただいた、南多摩の教職員の皆様、あかね会の皆様へ心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 卒業生訪問

世界ウルトラマラソン日本代表の  
福元翔輝さん(平成26年卒)に聞く

平成5年卒 入沢 修自

ウルトラマラソンは陸上競技の長距離走のひとつで、42.195kmを超える長い距離を走るマラソンです。平成26年卒の福元翔輝さんは、2025年10月18日(土)～19日(日)にフランス・アルビで開催された24時間走世界選手権に日本の代表として参加されました。

## 高校時代のこと

**入沢** 本日はよろしくお願ひします。はじめに南多摩高校に入学した理由をお聞かせください。

**福元** 中学生の頃から陸上競技を始め、高校でも競技を続けたいと考えていました。私立のスポーツ推薦はいくつかいただきましたが、スポーツ推薦に頼らず、勉強で入学したいという思いが強かったです。そこで当時、公立高校で陸上競技部が強かった川島先生顧問の南多摩高校を志望しました。

**入沢** 中学校の陸上は厳しかったのですか。

**福元** 中学校の部活動は競技力を高めるというよりも、友人という事を楽しむ部活でした。高校に入学してからは練習量が増えて、ぜんぜんついていけなくて。特に朝練10キロ走で鍛えられました。



**入沢** 朝練は週に何回でしたか。

**福元** 全体の練習は週2回、自主練を含めると最後の方では週4回やりましたね。

**入沢** 練習場所は学校のグラウンドではなかったような記憶があります。

**福元** 基本的には富士森陸上競技場です。当時は土のトラックでそこでの練習が多かったです。

**入沢** 高校での部活の実績は如何でしたか。

**福元** 関東大会、全国大会には行けなかったですね。推薦を頂いていた私立高校の選手が活躍していました。自分は都大会入賞まででした。

**入沢** 部活の最後は2年生の冬くらいでしたでしょうか。

**福元** 高3の11月の駅伝までしっかりやりました。

**入沢** そういう目標をずっと持たれていたのでしょうか。

**福元** 陸上のスタートラインに立ったら、学校の偏差値なんか関係ないし、入試では部活をやっているからなど関係ない。勉強でも陸上でも負けないように取り組

みました。

**入沢** 負けず嫌いで勝負事は勝ちたいという性格ですか。

**福元** あまり表には出しませんが、負けず嫌いな面は強いと思います。

**入沢** 静かにじわじわと、用意周到に、自分の可能性を限られた時間のなかで伸ばしてこられたのですね。

高校時代の思い出など如何ですか。

**福元** 当時は「陸上競技部」という名目で、周囲からくられていました。他の部活にはなかったですが、やはり個人的にも陸上競技部での活動が一番強いですね。

**入沢** 仲間との思い出などいかがですか。

**福元** 思い出は数えきれないくらいありますね。高校の同期で、今でも連絡を取り合ったり、会っているのは陸上の仲間たちです。

**入沢** 今でも連絡を取り合っているのですね。

**福元** そうですね、強豪校とのレベルに差があったとしても、共に戦った仲間なので。

**入沢** どうせ頑張っても強豪校には勝てないと、ネガティブになることはないのですか。

**福元** 正直、強豪校に名前負けしそうな時もありました。ただ自分たちも全く努力をしていないわけではないですし、それをぶつけていこう、そんな思いでみんなの前を向いてやっていました。

## 卒業後のこと

**入沢** 着々と練習し、競技も3年の秋までされて、受験の対策もされる。高校卒業した後、どんな人生というかビジョンをお持ちだったのでしょうか。

**福元** 大学の4年間は陸上競技を続ける気はなく、教員を目指す期間にしようと思っていました。陸上競技は高校で燃え尽きた感がありました、やりきれたという満足感か。

**入沢** 高校の卒業後の進路はどうなるのか。3年生の秋を迎えて心理的なプレッシャーはなかったですか。

**福元** ゼロということはないですけど、僕はしっかりそれも想定して準備してきたので、不安になることはそんなに多くはありませんでした。

**入沢** 福元さんにとっては、受験もそんなにプレッシャーでなく、結果は自ずと出てくる、ということなのですか。

**福元** 自分が思い描いていたとおりには、結果を出せたと思います。もし上手いかなかったとしても、大学の4年間で良い方向に近づいていければ、それでいいと思っていました。受験をネガティブにとらえながらの陸上競技ではなかったですね。

**入沢** 受験のことと陸上競技が、福元さんの中では一つのことなのですね。

**福元** そうですね。

**入沢** それは、ご家族の誰かに似てなのか、元々の性格によるのでしょうか。

**福元** 父親が学校の教員をしていて、箱根駅伝を走るくらいの人でした。父親の口癖が、スタートラインに立ったら頭の良さは関係ない、でした。私の中では、陸上も勉強も文武両道してはじめて意味がある、と理解していました。

**入沢** 大学はどちらに進まれたのでしょうか。

**福元** 都立大学の南大沢キャンパスでした。自宅は横浜線の相模原に近いところだったので、自転車でも30分で着きました。学校の先生になりたいという目標があったので、教職の勉強と、教員以外という選択肢も想定して、教育学部ではない理系の学部に進みました。ですから、教職課程はプラスで単位を取らねばならないので、時間に余裕もなく陸上競技から離れました。

**入沢** そうすると大学時代も、ご自身の目標に向かって走り出している感じですね。挫折することはなかったのでしょうか。

**福元** 大学の4年間は時間の確保が難しく、やはり走り続けるのは難しいな、そういう諦めはありました。ただ大学の4年間を走らなかったので、いま走っているというのはあります。

### 現在の活動について

**入沢** 一連のスタートから、今もゴールに向かって走っている印象を受けるのですが、学校の先生というのは、どのような位置づけになるのでしょうか。

**福元** 今勤務している学校は私立学校で、事前の研修はありませんでした。いきなり4月の第2週から授業でしたが、子どもたちから見たら僕が新卒であることはまったく関係ないし、必死に食らいつきました。

**入沢** 先ほどからお話を聞いていると、スタートからゴールに向かっていく一筋の道といったイメージを受けています。いくつかの関門があったはずなのですが。大学卒業出来ない人もいるし、教員として採用されるか否かも。

**福元** 私立の教員は会社員なので、独自の採用試験に受からなければなりません。今の学校は僕のやりたい理科のカリキュラムだったので、採用されるように面接対策など十分調べました。僕の好きな言葉は「準備」です。

**入沢** 勤務先の学校は、明星（メイセイ）中学校ですか。

**福元** 明星（ミョウジョウ）学園中学校です。学園がつく三鷹の学校になります。

**入沢** 教員採用試験に落ちることはないのですか。

**福元** 2枠に対して、50人くらい筆記試験会場にいたと思います。ダメだったらほかの学校か非常勤講師なども考えてはいました。とにかく受け入れてくれたところ

で最善を尽くそうと思っていました。

**入沢** 大学受験はどうでしたか。受験のための塾には通われたのでしょうか。

**福元** 部活も遅くまでやっていたので、自分で対策しましたね。それでも十分にやれると思っていた。

**入沢** 現在のお仕事に加えて、挑戦されている活動についてお聞かせください。

**福元** 務めはじめて3、4年経ってまた走り出しました。自分が活躍できている種目は、「24時間走」という文字通り一日でどれだけの距離を走れるか、という大会です。教える立場になって、自分の背中で子ども達に示したい。先生たちは、失敗を恐れずに挑戦しなさいと口では言う。じゃあ自分はどうか。新しいことに挑戦しよう、という思いでした。陸上競技の顧問になったのもきっかけです。

**入沢** 時間が空いて再び挑戦された結果はどうでしたか。

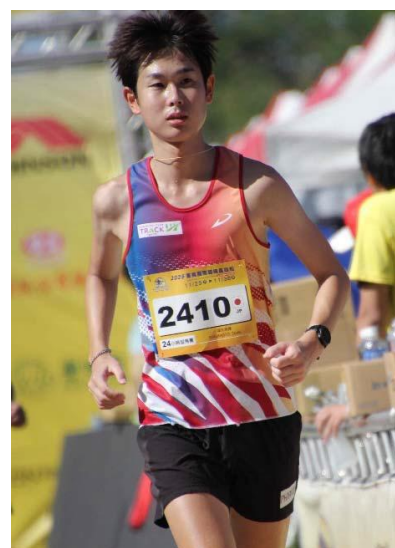
**福元** 3月の日本代表選考会において253kmという記録で優勝したため、日本代表に内定しました。ただ世界選手権までの期間、私の長所であったはずの「準備」が不足しており、思うような記録は出せませんでした。

**入沢** 引き続きこの競技への挑戦ですか。

**福元** 自分の活躍の場を頂いたと思っています。

**入沢** もしかすると、上位入賞を計画して準備しているのでしょうか。

**福元** 世界選手権の約1ヶ月後に招待された台湾でのレースで、自己ベスト254kmをマークしました。世界選手権での失敗を活かして、記録を出すための「準備」が出来た結果だと思います。今年の5月には青森で、アジア・オセアニア大会があります。今回の結果で、もう一度日本代表として挑戦することができます。このアジア・オセアニア大会で上位を目指します。



### 在校生に向けて

**入沢** 現在南多摩中等教育学校で6年間を過ごしている母校の生徒さんに対してメッセージをお願いします。

**福元** まずは挑戦することの大切さは伝えたいです。そして悔いの残らない挑戦になるように、しっかり準備してほしいですね。結果だけに着目するのではなく、準備の過程を大切にほしい。人生でみたら、中高の6年間は正に準備の期間。無駄な時間はありません。挑戦したいことが決まったら、よく準備をして突き進んでほしいです。

## 歴史発見

# 問いを立て、自ら学ぶ ～ホームプロジェクトの精神が紡ぐ八十年～

南多摩中等教育学校 校長 富川 麗子

あかね会の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本稿では、本校の源流である東京府立第四高等女学校（以下「第四高女」）以来の家庭科教育の伝統に光を当て、その中心にいらした仙波千代先生の教育実践と、それが現在の本校の探究活動にどのようにつながっているかをお伝えしたいと思います。



仙波千代さん

## 1 仙波千代先生

### ～「ホームプロジェクト」の誕生～

昭和初期、日本の女子教育は「良妻賢母」の育成を主眼とし、家庭科は家事や裁縫の技術を習得する教科として位置づけられていました。そのような時代にあって、第四高女の家庭科教諭であった仙波千代先生は、新しい家庭科教育を切り拓かれました。

仙波先生が提唱されたのは、「ホームプロジェクト」という探究型の学習です。これは、家庭科で学習した内容を高校生の目線で自己の家庭生活を見つめ、問題点を見つけ、調査・研究を行うものであり、主体的に解決方法を考え、計画的に実践する問題解決的な学習です。生徒たちは自宅での生活課題を学校に持ち寄り、仙波先生の指導のもと、それを学問的に掘り下げていきました。単なる技術の伝達ではなく、日常の「生活」を「学び」に変えるという、当時としては極めて先進的な教育実践だったのです。家計のやりくりや食事の工夫、育児の悩みなどを自ら調べ、改善策を提案するこの学習は、現代の探究学習の先駆けと言えるでしょう。

もともと第四高女は、八王子という地域性を活かし、生活に密着した教育を重視する校風がありました。仙波先生のホームプロジェクトは、その土壌の上に花開いたものであり、生徒の主体性、問題解決力、そして社会性を育む教育として、全国の教育者から高い評価を受けることになりました。

ソッドを取り入れるため、全国に4校の実験校が設置され、南多摩高等学校はその一校として指定されました。翌24年度からは新教育課程が始まり、ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動を取り入れた指導法が普及しました。南多摩には、仙波先生の授業を参観するために、全国から年間600人もの教育関係者が来校するようになりました。参観者のいない日は一日もなかったといえます。仙波先生は毎日、校長先生に指導案を提出され、その姿勢は南多摩の教員全体に共有されていました。日々の授業を常に研究の場とする、その真摯な教育実践こそが、南多摩の家庭科教育を全国の範とした原動力となっていました。まさに「教育の最前線」が本校にあったのです。

参観に訪れた方々が特に注目したのは、家事や裁縫の実技ではなく、家族関係や住居といった、人間の暮らしの本質に迫る授業でした。家庭科を「技能教科」から「人間の生き方を考える教科」へと転換させた仙波先生の功績は、計り知れないものがあります。



昭和25年(1950) 調理実習

昭和25年には、当時の第三代岩崎源兵衛校長先生が、仙波先生と共に文部省の教育調査官による「新しい教育について」の講演を聴講され、「これからの家庭科は家庭経営を中心にやっていく」という内容を受けて、「男子も家庭科を勉強しなくてはならない」とおっしゃったと伝えられています。今日では男女共修が当然となった家庭科教育ですが、昭和20年代にすでにその萌芽が南多摩にあったことは、特筆すべきことです。

## 2 全国が注目した南多摩の家庭科教育

昭和23年、家庭科の学習にホームプロジェクト・メ

## 3 海を渡った先駆者

仙波先生の卓越した実践は、全国から注目されました。

文部省と教育委員会は、家庭科教育のナショナル・リーダーとして仙波先生を選び、アメリカへ派遣しました。仙波先生は渡米先でホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の最新の理論と実践を学び、帰国後はその知見を全国に広めていかれました。

このエピソードに関連して、心温まるお話があります。昨年12月、私は、昭和21年に卒業された松井嵯峨様と直接お話しする機会に恵まれました。その方は仙波先生に教えを受けたとのことで、後輩から聞いたという大変興味深い逸話を教えてくださいました。アメリカ派遣前、仙波先生は袴姿で教壇に立っておられたそうですが、帰国後はパーマをかけ、洋装で颯爽と教壇に立たれたというのです。そのハイカラな姿は、当時の生徒たちに海の向こうの新しい世界への憧れと強烈な刺激を与えたそうです。



昭和25年(1950)3月 コロラド州立家政大学名誉教授・ウイリアムソン先生をお迎えして「ひなまつり」

時代を切り拓く先駆者としての教師。それを瑞々しい感性で受け止める生徒たち。そのような光景が、かつての南多摩に確かにあったのだと思うと、胸が熱くなります。

#### 4 学びを地域へ

##### ～昭和20年代に始まった社会貢献～

戦後の物資が乏しい時代に、南多摩の生徒たちは立川の老人ホームを訪問し、手編みのマフラー(生徒が持ち寄ってきた毛糸の衣類を解いて、同じ色に染めた毛糸で編んだもの)を届けたり、専門家からマッサージを学んで肩もみの技術を披露したりしていたと聞きます。学んだことを地域に還元する社会貢献活動が、昭和20年代からすでに根づいていたのです。ホームプロジェクトの精神は、教室の中だけにとどまらず、地域社会とのつながりの中で生きていました。

#### 5 ホームプロジェクトから探究活動へ

##### ～受け継がれる学びの精神～

仙波先生が実践されたホームプロジェクトの本質は、

「生活の中から課題を見出し、自ら考え、解決策を探る」という探究の姿勢にほかなりません。この精神は、時代を超えて現在の本校の教育活動に脈々と受け継がれています。

本校では、中等教育学校の強みを生かし、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間を通して、一年生から5年間にわたる系統的な探究活動を実施しています。前期課程の一年生から三年生では、数人のグループで探究活動に取り組み、仲間と協働しながら課題解決の力を養います。後期課程の四・五年生では、ゼミ形式で個人の探究に取り組み、自らの問いを深めていきます。

さらに、「SDG's ミーティング」やGI(Glocal Issues)研究会」といった活動を通して、地域や地球規模の課題に正面から向き合う取組も展開しています。これらは、かつて南多摩の生徒たちが地域に学びを還元した社会貢献の精神を、現代的な形で発展させたものといえるでしょう。

#### おわりに ～伝統を未来へ～

昭和20年代、南多摩から全国に広がった「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」。その先駆的な教育実践は、仙波千代先生の情熱と先見性、そしてそれを支えた学校の風土があってこそ実現したものでした。

教員になって間もない頃、私は仙波先生にお会いする機会がありました。その時、仙波先生は既に90歳を過ぎていらっしゃいましたが、お食事でも盛り盛り召し上がり、正に「食べることは、生きること」を実践していらっしゃると感じました。また、非常にユーモアがあり、昔の苦労話も楽しみに変えていらっしゃる感じがしました。

伝統とは、ただ守るものではありません。新しい時代に合わせて、進化させていくものです。本校の探究が、次の時代の「新しい伝統」になることを、私は心から願っています。先人の志を受け継ぎ、時代に応じて進化させていくことこそが、真の伝統の継承だと考えます。仙波先生が生活の中に学びの種を見出されたように、本校の生徒たちもまた、身近な課題から出発し、探究を通じて新たな価値を創造しています。

このように、本校の「探究」は、80年以上前からこの八王子、南多摩の地で芽吹き、全国に広がっていったのです。本校生徒が今取り組んでいる探究活動は、決して一過性のものでなく、歴史の中で生まれ、受け継がれてきた「本校の柱」と言って良いのではないのでしょうか。本校は、この誇るべき伝統を礎に、探究活動を全都・全国に積極的に発信してまいります。あかね会の皆様には、引き続き温かいご声援を賜りますよう、お願い申し上げます。

注) 写真はいずれも創立100周年記念誌『湧水万古』より転載

## 会員だより

## 還暦！ 横関君のお店で同窓会

昭和59年卒 小泉（吉沢）明代

## 担任は物理の古屋東一郎先生

昭和59年卒は還暦。「久しぶりに会いたい！」の気持ちが高まっていました。2025年7月、コロナ禍も明けたということで待望の同窓会（クラス会）を開催、皆に会えて本当に嬉しかったです（写真1）。



写真1 前列右2人目が筆者

我がクラスは3年5組、当時の1学年は9組までありました。2、3年時にクラス替えはなく仲がとてもよかったと記憶しています。担任は物理の古屋東一郎先生。難しい物理をととても熱心に教えてくださったことが今も鮮明です。

## そこは元横山町 2-7-5（火曜定休）

会場を提供してくれたのは同級生の横関吉郎くん。JR八王子駅至近の場所に「前略」という横関君がオーナーの居酒屋があります（写真2）。『前略おふくろ様』というTVドラマに出てくるような昭和が感じられる店の雰囲気になりたいと意識しての命名だそうです。その名のおり店内に入ればどこか懐かしい気持ちにさせられます。店主・横関君がいつも大切に心掛けていることだそうです。入口手前はカウンター席、奥にはお座敷もあり大人数でも対応できる使い勝手の良い店です。



写真2 大きな提灯が目印

昭和レトロな「前略」で「昭和」59年卒が「還暦」クラス会、感謝還暦・感謝感激の再会でした。仕事や子育てや自分の健康や趣味の話、南多摩名物「南高体操」はなかなか覚えられなかったとか、校歌は歌える？などいろんな話が飛び出して盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。若かった学生時代とは違い、人生を重ねてきてふたたび旧友と会える喜びは格別で、また励みにもなります。これからも折をみて「前略」に集まりたいと思っています。

## 「よ」の仲

私の旧姓は吉沢、五十音順だと横関君が前、私はいつも彼の後ろ。3年間ずっと野球部で活躍していた彼は背が高く、小柄な私はいつも黒板を見ることに苦労していました。

横関君は卒業後、調理師の資格を取得。赤坂の料亭で10年ほど修行、さらに八王子の京王プラザホテル和食部門で腕を磨き、満を持して「前略」をオープンしました。地元・京プラで働くようになって「自分の店を持つなら絶対に地元八王子でやりたい」とずっと思っていたそうです。地元で開店したからこそのご縁もこれまでたくさんありました。店を構えたのが30歳、今年開店30周年。30+30=60、還暦です。

## 野球部も集まる

「前略」では野球部のOB会も行われています。70歳代の先輩や後輩が集う場所です。そのようなご縁もあり、南多摩高校の卒業生たちが自然にこの店に集まるようになりました。私達3年5組も他のクラス合同で同窓会を行ったりしています。

店主の横関君はいつも気持ちよく店を提供し歓迎してくれます。午後3時開店、明るいうちから飲めます（042-644-4011）。先輩後輩諸氏の皆様、電話番号のメモを「よ」ろしくお願いたします。

## おわりに…

クラス会の記事を書いているうちにいつの間にか横関君の紹介部分が増えてきてしまいました。だって「よ」のご縁の私、頑張っている彼を応援したくなってしまうので…。

ご理解の程、宜しくお願いたします。私も彼に負けないように「南魂」同窓として頑張ってまいります。

# フォト短歌集「花のものがたり」を出版 私には過ぎたる女房（昭和43年卒）でした

昭和38年卒 木崎 勇

C

## きっかけは会報「みなみたま」

美しい日本の花を先ずは愛で、そっと近づき撮り、そして詠むをメインテーマにフォト短歌集を出版しました。

きっかけは、妻と私の出会いを「乾徳山の鎖」と題して会報「みなみたま」（第16号、2025年）に拙文を掲載して頂いたことでした。その文章、看護師長様に「私がない時に読んで下さい」と会報「みなみたま」を託しました。

看護師長さんから「入院生活の中でなかなか笑うことのなかった奥様がそれは、それは嬉しそうにニコリと微笑まれましたヨ」と。私は涙し、会報「みなみたま」に感謝いたしました。

## 妻にもっと笑って貰いたい

このエピソードを同窓の方に感動をもって語りましたところ「次はどのようにして笑っていただきましょうかね」との反応。そして「撮りためた素敵な写真とその写



真について詠んだ短歌を一冊にまとめた写真集を奥様に届けたらベッドから起き上がって微笑まれるかも？」と。

しばらく逡巡しておりましたが「私には過ぎたる女房」のために頑張っ、もっと笑ってもらおう！」と決意が固まり、ここに写真と短歌を集めた「花のものがたり」が出来上がりました。

## 出版して本当に良かった

多摩の川面を渡る風が、季節のうつろいをそっと私の耳元でささやいてくれます。そんな東京、青梅の地で、私は長らく妻と暮らしてまいりました。窓から見える景色、鳥の声、土の匂い。そのすべてが、私の日々を彩り、心を静かな喜びで満たしてくれます。そんな想いを込めた一冊の本を、この度、おずおずと世に送り出すことに

なりました。ファインダー越しに見つめてきた光と、拙いながらも詠み続けてきた三十一文字の言の葉をここにそっと編み上げてみました。本の中には家内が好きだったイングリッシュブルーベルの一葉などを収めました。ぜひ皆様に見て、そして読んで頂けたらと思います。



イングリッシュブルーベル

## 大きな声で笑ってくれました

出版への途上「先ずは短歌だけでも」と入院中の家内に届け、看護師さんと私と家内で短歌を少しずつ読み進めていきました。すると、急に家内と看護師様が声を立てて笑い出したではありませんか！入院してから2年、妻のこんな大きな笑い声は聞いたことがありませんでした。私はビックリするとともにすごく嬉しくなりました。完成した本を見せられなかったのは残念至極ですが、あの時の妻の笑い声がこれからの私の心を支えてくれると確信。おかげさまで完成した本を手にした写真でお分りのように私にも笑顔が戻りました。

## 母校に感謝

「出版して本当に良かった」。このようなチャンスを作ってくれた私と妻の母校「南多摩」に心底感謝。写真に出合えた南多摩時代（写真部と柔道部に所属）に感謝、そして会報「みなみたま」に感謝です。本当にありがとうございました。

妻の名前は明子、今は亡き（2025・9月に永眠）家内の明るくチャーミングな写真を添えます。



# 大和撫子（昭和38年卒）発見！

昭和44年卒 井上 務

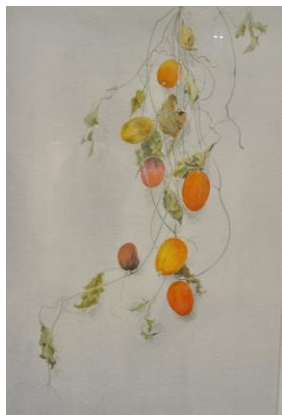
## 青梅で咲いていました

絶滅危惧主婦・やまとなでしこ様を見つけましたので御報告いたします。その方は野村登久江様（旧姓：清水様）。親元（西多摩郡）からの通学は交通の関係で難しいと15歳の少女は多摩市在住のオバ様宅に寄宿することになりました。

日本女子サッカーのチーム名は「なでしこジャパン」。可憐だけれど強くて美しい大和「なでしこ」の名を冠しています。青梅で咲いていた野村様もまた「可憐で強くて美しい」ナデシコ様でした。ナデシコは「撫でし子」だそうで「愛された方」を意味するそうです。家族はもちろんオバ様からも愛され、期待された南多摩時代だったようです。

## カラスウリ

昨年（2025年）秋、この原稿をまとめるためにご自宅を訪問させて頂きました。お部屋には夕焼け色のカラスウリがそっと活けられていました。私が「カラスウリのタネは打ち出の小槌の形をしているので、お財布に入れるとお金がたまると言われていました」などとお話すると「あら、明日にでもその打ち出の小槌を手に入れてみますワ」と興味津々。旺盛な好奇心に若さの秘訣が見えました。西多摩出身の福島重徳画伯（1920-1997）が描いたカラスウリがありましたのでご覧ください。



「今回の取材記事が会報に載ったら5月に計画している同窓会が盛り上がるワ」の声。同窓会で青春時代に戻って頂き「益々お元気に！」と願いました。

## ご主人様をご紹介

ところで、野村様のご主人様は井上（昭和26年生まれ）の中学校時代の恩師です。先生は昭和11年生まれ、私とは15歳の年齢差。同窓会で先生は「私を同級生と間違えた者がいる！」と苦笑。私は「先生がお若いということです」と応じました。間もなく卒寿の先生、歯は全部自分のもの、眼鏡なしで新聞が読める視力は1.2。

南多摩卒のナデシコ奥様のご主人に対する細やかな健康管理が素晴らしいに違いないと確信いたしました。私（井上）と先生の奥様とのツーショット写真をご覧ください。奥様ご自身の健康管理もまた素晴らしいことがお分かりかと思えます。

## ご主人様の記憶力に脱帽

ところで、ご主人様を私の恩師と紹介させて頂きましたが、担任でもなく授業を受けたこともなくクラブの顧問でもなく廊下ですれ違う程度の先生のはずでした。しかし、卒後何十年も経った某日、先生にバツタリお会いいたしました。その時、先生は「井上君！久しぶりだな！」と言って下さったのです。驚きました。沢山の生徒を教え、校長先生もされた先生から「井上君！」と呼ばれたことにとっても感動いたしました。その後、先生といろいろ懇談する機会が増える中、奥様がナント南多摩の先輩であることが判明したのですから本当に驚きました。先生との距離が一層身近になりました。

## お孫さんのこと

お孫さんは男の子ばかりだそうです。「どんな大人になりたい？」と問うと「おじいちゃんみたいな大人になりたい！」と答えたそうです。もし、女のお孫さんがいたらきつと「おばあちゃんみたいになりたい！」と答えたに違いありません。

そのお孫さんの一人に富山県在住の輝（ひかる）君がいます。ローイングというボートを漕ぐ競技で国体やインターハイで大活躍。ネットで「富山、ローイング、野村」で検索するとその活躍ぶりが見られます。ご自慢のお孫さん達の凛々しい写真を前に「孫の全員がジイサン・バアサンとは違って見上げる程の高身長なんだヨ」と相好を崩されるご夫妻の姿が印象的でした。



筆者（左）と野村登久江（旧姓：清水）様

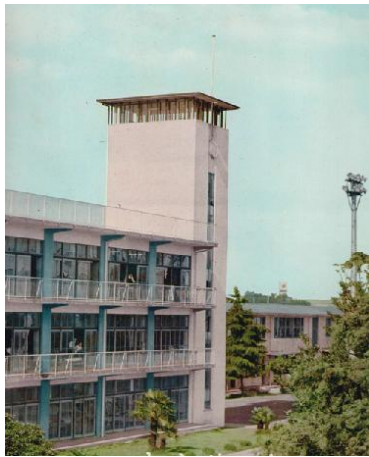
## おわりに

学校で教えて頂いたことを仮に全部忘れたとしても残っている何か「教育の力」と言っていた方がおりました。今では少し古めかしい言葉のようですが良妻賢母な大和撫子を育てた南多摩の歴史を感じましたので皆様にご紹介させて頂きました。

# 舞踊部からキルト・細密絵画へと

昭和45年卒 早川（水野）ふみ代

入学は昭和42年、この年から学校群制度が始まりました。南高に合格したので嬉しく、入学までワクワクしていました。授業が始まると一部の先生方から「新入生は学力が低下した」と言われ続け、ワクワク気分がイッキ暗転、理不尽でとてもやりきれない気持ちでした。学力低下は東京都が受験制度を変更したため、私たちの責任ではありません。先生方の心ない言葉に、友人達は傷ついていました。私の担任は、リベラルな考えの畑山先生でしたのでラッキーでした。学年全体の印象は、とにかく元気でエネルギーな学年でした。



一方、世の中は混沌としていました。ベトナム戦争反対・70年安保反対のデモ、学園紛争で一部の大学はロックアウトです。都内では大きなデモが日常的で、身近では立川駅でのデモ（砂川闘争）もありました。

部活は舞踊部でした。友人に誘われての入部でした。練習は体育館の舞台でとても恥ずかしかったのですが、慣れると他人目が気にならなくなりました。毎年11月、東京都創作舞踊大会が虎ノ門ホールで開催されました。毎年のテーマが決められているので、1年かけて創り上げていくのです。予算、部員の多い私立女子高校が強かったです。南高は少人数で、全員出場で頑張りました。和気あいあいとしてまとまり感のあるクラブでした。

卒業後は都立商科短大へ進学、専門学校に通い、就職後約10年間働きました。旅行が好きで学生時代はアルバイト、就職しても旅を楽しんでいました。忘れられない旅行は1976年(25歳)に友人とのヨーロッパ3週間の気ままな旅です。友人はイギリスでの語学留学を終えたタイミングで、パリで待ち合わせしました。初めての海外旅行で、旅費節約のため飛行機はエアフロート(ソ連機)、欧州内はユーレイルパス、宿泊はユースホテルや学生寮でした。無計画な旅でしたがとても楽しく、その後の人生にも影響する良い経験でした。記憶に残るのは、フィレンツェからシエナの電車内で日本人かと聞かれ「はい」と答えると、「タナーカ」と新聞を見せられました。そこには、田中角栄の写真が大きく載っていて、田中角栄の逮捕を知ります。

会社勤めは最初3年が日本の商社で経理、その後はアメリカの自動車会社で英文経理で働きました。

その後は結婚、育児とあわただしく過ごします。

子供が5歳頃、近所の友人にパッチワークキルトを紹介され教室に通います。テレビやラジオを聴きながら縫え、育児中には向いた趣味でした。多数のキルト展を巡るうち、鷺沢玲子先生の作品に出会います。その繊細な技法に憧れて先生の教室へ(1994年)。4年間ぐらいは基礎練習でしたが、自然と2m×1.8mのタペストリーを製作できるようになり2年ごとの展示会(新宿パークタワー)に出品するようになります。2013年に突然めまいを発症します。治っても調子が悪いのでキルトは止めました。キルトと並行して、2000年から古典技法の絵画教室にも通っていたので、絵画は続けました。

古典技法絵画は、当時住んでいたマンション集会所での幼児お絵かき教室の先生が、時々大人の油絵も指導されていました。絵画は未経験でしたが参加すると、



「あなたは細密絵画が向いている」と言われ、先生の友人の鈴木和道先生を紹介されます。鈴木先生は東京芸大・大学院卒業後、ウィーン応用芸術大学で北方ルネサンスを基礎としたテンペラ、油彩を学んでこられた先生です。

右も左も分からず始めた古典技法、最初はイタリア・ルネサンスの作品を模写し、徐々にオリジナル作品へ、5年くらい経った頃に個展を薦められます。先生の持論は「個展開催が上手になる秘訣」という考えです。最初は驚きましたが、冷静になると結果がどうなっても失うものは何もないと思い、2006年銀座の画廊で開催しました。作品は猫の絵と金箔を背景とした花の絵が中心でした。不安でしたがスタートすると売らせてほしいという会社が現れ「案ずるより産むが易し」と思いました。開催後は、全て自分で準備したという満足感でした。

その後、2～3年ごとの個展、グループ展を楽しんでいます。画廊から現代童画展の応募を薦められ応募すると入選。2017年、友人から海外公募展のパンフレットをもらい、スペイン、フィンランドの公募展に応募すると入選。この公募展の主催団体がフランス伝統のサロン「サロン・ドートンヌ」の窓口と知り、応募するとラッキーにも両方入選。我ながら本当にビックリしました。

応募の動機が「入選したらパリに行ける」という軽いノリだったのです。パリでは個展の話は一時コロナで中止でしたが、その後「サロン・ドートンヌ」やパリでの

個展は69歳で果たしました。人生最後まで何が起きるかわからないことを実感しています。

最近の楽しみは、ミニ個展の準備とミニ同窓会への参加です。後者は同級生の小島正存氏、啓子さんご夫妻のご厚意で、年に3回、妙経寺さん客殿でのミニ同窓会が

開催され参加しています。懐かしさはもちろん、皆さんと会話が文学、映画、音楽、スポーツ、政治等多岐にわたり楽しく刺激になります。74歳になっても楽しい時間を過ごし、小島ご夫妻に感謝すると共に、幸せを感じている今日この頃です。(2025年晩夏)

## 南多摩高校の思い出と家族の介護

昭和48年卒 本木(山崎) 貴久江

初めての電車通学となり、秋冬に立川駅から多摩川の鉄橋を渡る時に、一面の白いススキを眺めるのが楽しみでした。空も澄み、山並み、富士山もきれいでした。

浅川を越えると、八王子駅に到着です。この時期の体育の授業は倒立と、浅川の橋を二つ渡るマラソンです。心身に余裕はなく、せつかくの景色も見るところではなく残念でした。

当時は制服が標準服となり、「私服もあり」になったところでした。私は、標準服で通学しました。行事のときなどは私服になって、便利だと思いました。

のちに、南高の先輩から「制服について話しあった結果」だと、就職先で聞きました。当時の先生方が、「校則について、生徒が話しあっていることを知り、生徒の気持ちに寄り添ってくれていた」のだと思いました。

入学したばかりのときに、名物の飛び込み台のある深いプールを眺めていたところ、先輩から声が掛かりました。「水泳部は、私には無理!」と思っていたものの、「はい」と答えてしまい、友達と一緒に入部しました。結果は、やっぱり無理でした。

学校行事の思い出は、何と言っても合唱祭と入笠山の登山です。合唱祭は、舞台上で歌ったり練習したりしたことは思い出しましたが、結果は覚えていません。

仕事に関しては、保育士として定年まで働き、その後3年ほど時々アルバイトをしました。

家族については、認知症の夫の介護、二人の母の介護の応援でした。合間を縫って、お互いさまサロン、体操やヨガ教室、お習字、絵手紙教室に通いました。

夫の介護は、地元の認知症外来に、服薬と家族の会の参加で通いました。薬が追加になり、夫がドネベジルを飲みだしてから暴言、暴力が始まりました。

認知症が進んだと思い、介護保険を申請したところ要介護3で、デイサービスと訪問介護につながりました。そのときのケアマネジャーの言葉が忘れられません。

「あなたは十分に頑張った。もう頑張らなくていい。これからは自分の時間、人生を大切にしてほしい」と。以降、夫のデイサービスの日は、気ままに用事をすませ、一人でごほうびランチ、おやつでホットできています。

GPSで位置情報の確認ができるサービスに気づかず、利用していませんでした。夜、自宅に隠れた私を探そうとした夫は、外に出て行方不明になりました。小平警察署から連絡が入りました。薬を抑肝散に替えると、夜間の外出、暴言、暴力も収まってきました。

介護サービスを知っておくことは大切と思い、「介護かるた」を作りました。市民活動センター、高齢福祉課、地域包括支援センター、お互いさまリーダーに協力してもらい、助成金も使ったかるたを完成しました。令和6年2月、お互いさまサロン70か所、学校、病院、協力してくださった方々などに、150セット配りました。

自宅で月1回のお茶会、夫とともに認知症カフェを始めて10年ほどになります。今年4月以降、夫が歩くのを忘れてベッドの生活の日曜日は、自宅で30分の演奏会を不定期に開いています。

退職後、保護司のボランティアとのつながりも続いています。いろいろな方にお世話になって生活が回り、感謝の毎日です。地域のつながりを広げてくれた夫にも、感謝しています。



自宅カフェのサンルームで、インタビューを受けた時の写真 夫と共に(令和5年8月の市報に掲載)

### お互いさまサロン

脳トレーニングドリル No.42 (R7.09作成)

武蔵村山市内の風景シリーズ その23

本木邸「お茶会・オレンジカフェ ミツ木」(認知症カフェ)



# 南高体操、個人メドレーとニックネーム

昭和59年卒 山根(山田)博史

早いもので卒業から40年以上経ち、還暦の60歳を迎えることができました。高校生の頃、60歳と言えばおじいちゃん・おばあちゃんでしたが、自分がなってみるとまだまだ若いと都合よく考えています。

40年以上経ってから、母校を訪れる機会がありました。晩婚であったこともあり、娘は12歳の小学校6年生。我が子を自身の後輩にとの思惑で、学校見学のために「南魂祭」を訪れました。いい意味で変わっていない校舎に、懐かしさを感じました。

あいにく娘は、公立より私立を希望したため、「我が子を後輩に」という野望はかないませんでした。訪れたことがきっかけで、あかね会の行事に参加しようと思ったのです。

私の在校当時の思い出には、体育館とプールの建て替えがありました。

入学時には、京王八王子駅寄りに体育館とプールがありました。歩道橋のすぐ横の門が正門で、門から校舎に向かうと、手前に体育館、その奥にプール。プールには、スタンドと全国大会優勝の記念碑があったことを、鮮明に記憶しています。



1年次の思い出は、「南高体操」（今はないようです）と100メートル個人メドレーでした。

5月から水泳の授業があり、タイムを計るのが授業。「バタフライ教えてもらったっけ？」という状況でしたが（少しは教わった記憶はありますが）、水泳部の友人に教わって何とかバタフライも25メートル泳げるようになり、個人メドレーを泳ぎきったのです。

水泳の授業がないときは「南高体操」。模範なしで南高体操をすることが1学期の試験でした。10点満点で9

点だったことを覚えていますし、今でも自慢です。

「南高体操」のテスト結果と水泳のタイムが体育の評定だったと記憶しています。独特の体操があったことに、今思うと誇らしいことなのだと思います。伝統があるからこそ存在するものなのかな、と思います。

もう一つの思い出は、海外帰国生徒の受け入れです。現在の受け入れ校は日野台高校のようですが、三田・竹早高校に続き、海外帰国生徒の受け入れが南多摩で始まったのです。

男子バレー部に、帰国生徒が入部して来たときのことです。部では互いの呼び方を苗字ではなくニックネームを使っていました。ニックネームの付け方は、今思うと本当に単純で申し訳なく思っていますが、フィジーから帰国した人には「フィジー」。ローマから帰国した人には、そう「ローマ」と、帰国してきた国名や地名をニックネームにしていたのです。

しかし、ここで問題が発生しました。アルゼンチンから帰国した人が入部することになったのです。国名のアルゼンチン、都市名のブエノスアイレスにしても、どちらも呼ぶには長い。困った挙句に、名前の「たろう」になったのです。その後は、ニューヨーク等々、とても国際的な部だったことを思い出します。

現在、私は結婚相談所の加盟店としての運営や、教育コンサルタント会社時代のご縁で研修講師も継続中です。また、保護司として更生保護活動にも取り組んでいます。今後もお縁を大切に、色々なことに挑戦していきたいと思います。



保護司活動で高橋稲城市長との2ショット

## 南多摩高校 昭和52年3月卒業 50周年記念同窓会のお知らせ

昭和52年卒 3年6組 山口 慶介

卒業から50年の節目に、同窓会を開催いたします。

私は元生徒会会長として、高3夏の交通事故による入院により、皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びし、当時の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

昨今は恩師や仲間の訃報が増えました。幹事の中野幸治の男子テニス部でも、4人中2人が他界し、「元気なうちに再会したい」との想いから本会を企画しました。

### 【開催概要】

日時：2026年10月17日(土) 昼頃～

会場：八王子エルシィ(会費 8,500円・事前振込制)

申込：3年時のクラスと旧姓を明記し、下記へメールでお申し込みください。

申込先：nanko\_s52@googlegroups.com

小学生の頃、姉の通う南高で見た「ベ平連」（ベトナムに平和を！市民連合）の展示や「英語劇」への驚きが私の原点です。不安な国際情勢下ですが、世界平和を祈念しつつ皆様との再会を楽しみにしております。

幹事：中野幸治(4組)、山口慶介(6組)

# 建築家として貢献できることがあればと

平成13年卒 虎尾 亮太

2001年卒業の虎尾亮太と申します。

現在は建築家として、都内で一級建築士事務所を主宰しております。台湾出身の妻も建築家であり、二人の子供を育てながら事務所を共同経営しています。ご縁に恵まれ、日本は北海道から沖縄まで、海外でも台湾やアジアの様々な地域で建築設計の仕事をしております。

南多摩高校には、中高一貫になる少し前の3年制の頃に在学しておりました。テニス部に所属し、部活帰りにみんなで御殿のラーメンを食べたり、駅前のカラオケに行ったりと、八王子生活を満喫していました。

在学中に多摩モノレールが開通し、バス通学からモノレール通学が変わったことも新鮮でした。また、在学中の3年間を通して体育祭の応援団に所属し、浅川の土手で遅くまで練習していたのもとても良い思い出です。

当時の友人達とは今でも良い関係で、年に一度は集まっています。そのうちの一人は、今の事務所に在席してもらっており、25年以上の付き合いの信頼もあって、会社の経理を任せています。高校時代の友人と経験は、とても貴重な財産だと改めて感じています。

高校卒業後は、東京理科大学に進学し、大学2年生の頃に建築の面白さに目覚め、大学院は東京大学に進むことにしました。大学院受験は大変でしたが、有名建築家でもある教授の方々や、論理構築力の高い同級生達に囲まれて、東大は非常に刺激的で恵まれた環境でした。

そんな環境からか、社会の一線で活躍する建築家の下で修業をして将来独立をしたいという思いを強め、卒業後は隈研吾さんという建築家の事務所に入所しました。



隈研吾先生(右端)、佐藤可士和氏(左端)との打合せ風景  
(筆者右から2人目)

入社時はまだ小規模な事務所であったこともあり、20代のうちから責任のある大きな仕事を任せてもらいました。中国アリババの創業者である馬雲さんという世界的に有名な経営者や、クリエイティブディレクターの佐藤可士和さんをはじめ、世界の最前線の方々と膝を突き合わせて仕事をご一緒できたことは得難い経験でした。

「建築家になるためには建築家の傍にいたことだ」と隈さんから教わり、隈さんも彼の先生から教わったことですが、どんな時にどんな行動をするか、ということに加えて、誰もが特別ではない普通の人間で、色々なことに悩みながら生きている、自分と変わらない、ということが本意だった捉えています。色々な方々の振舞いを直接この目で見られたことは幸運でした。

また、入社当時は英語を話せませんでしたが、取引先だけでなく、部下までもが外国人しかいない海外プロジェクトの主担当となり、辞書を片手に悪戦苦闘していました。無茶ぶりの甲斐もあって、いまでは英語、中国語でのビジネスも対応できるようになりました。国際結婚もして、英語が苦手だった高校生の頃には本当に想像も出来なかった人生です。



審査委員長を務めた東京理科大学での卒業設計講評会  
(筆者左端)

2017年の独立以降、現在は自身の事務所で「共存」をテーマに、建築に関わる様々な設計活動をしており、東京理科大学と東京電機大学で非常勤講師を務めています。八王子からは少し疎遠になっていましたが、地元への恩返しの意味も込めて、建築家として何か貢献できることがあればと最近考え始めています。

# 新潟の地で受け継ぐ「南多摩イズム」

平成20年卒 大野 純

私の南多摩での思い出として、最初に思い起こされるのは陸上競技部での活動です。当時の陸上競技部は、顧問の川島利治先生の下、都立高校でありながら強豪校としての地位を築いており、私自身そこで競技をしたいとの思いで入学を決めました。

私は中長距離種目を専門にしていたのですが、素晴らしい先輩や同期、後輩に恵まれ、充実した日々を過ごすことができましたと思っています。特に、高校2年次に東京都高校駅伝で6位に入賞し、関東高校駅伝への出場を決めたことは一生の思い出です。「東京都6位でそこまで…」と思われるかもしれませんが、「スポーツ推薦のない都立高校が私立の牙城を崩した」という当時の充実感や達成感は、成績以上に心に残っています。

また、競技成績だけでなく、浅川や小宮公園で語り合いながら走ったこと、練習帰りの買い食いや昼休みの懸垂逆上がりの特訓など、高校生らしい時間を過ごしたことも懐かしく思い出されます。苦楽を共にした同期とは、卒業から20年近く経った現在もその関係は続いており、去年は皆でロードレースに出場するなど、この仲間に出会えたことこそが、高校時代における最大の財産であったと感じています。

卒業後は新潟県の大学に進学し、現在は新潟市内の私立中高一貫校で教師をしています。教職を目指した動機も部活動の指導に携わりたかったことが主な要因であり、この選択も南多摩での経験が大きく関係しています。幸いにも着任以来、陸上競技部の顧問を任されており現在も充実した日々を過ごしています。



新潟・湯沢での2007年夏合宿

(筆者は前列右から7番目、後列右端が川島利治先生、後列左から2番目が安藤秀紀先生)

顧問として活動する中で、ふとした瞬間に「南多摩のつながり」を感じ、胸が熱くなることがあります。特に

印象深いのは、2021年の福井インターハイでの出来事です。私の勤務校の選手が決勝まで進出し、3位入賞を果たしました。それだけでもとても感動した出来事でしたが、驚いたのは決勝のスタートリストを見た時です。わずか8名の決勝メンバーの中に、南多摩の先輩である下平芳弘さん(2003年度卒業)の教え子も含まれていたのです。恩師・川島先生の専門種目である800mにおいて、全国の頂点を決める舞台に「南多摩イズム」を受け継ぐ二人の教え子が並んでいる。まさに感無量でした。

また、昨年12月の全国高校駅伝での再会も忘れられません。監督会議の会場で、後ろからガシッと肩を掴まれ「大野！」と声をかけられました。驚いて振り向くと、そこには副顧問としてお世話になった安藤秀紀先生が立っていたらっしゃいました。肩を掴む手の力強さや声の響きは当時の記憶そのまま、一瞬で高校時代に引き戻されたような感覚でした。



2024年全国高校駅伝(筆者は後列左端)

ちょうどこの寄稿を依頼されていた時期でもあり、思いがけない再会に、当時の思い出話に花が咲きました。遠く離れた新潟の地で指導を続けてきましたが、今もなお恩師や先輩方と確かに繋がっている。そう確信できた、本当に幸せな瞬間でした。

この4月で新潟での生活も19年目に突入します。東京での生活が高校時代までの18年であったことを考えると、月日の流れの早さを感じずにはられません。新潟にいるからこそ、母校に対する愛着がより深く湧くものであり、今回の寄稿もそうしたご縁から書かせていただきました。

今後も南多摩で培った「南多摩イズム」を大切に、また多くの人に伝えていきたいと思っています。最後になりますが、今も私の背中を押してくれている、当時の陸上競技部のスローガン添えて筆を置かせていただきます。「夢へチャレンジ！」

# 南高男子バスケット部最長老OB会 続報

最長老OB会総務 昭和48年卒 春日 幸雄

会報「みなみたま」第16号の続編として、男子バスケット部最長老OB会の活動を寄せさせていただきます。

昨年12月、一年半ぶりに「淳ちゃん寿司」(山田町)において第7回OB会を開催しました。会長の大久保氏の病気療養、リハビリが漸く終了し、快気祝いを兼ねての開催で8名が参加しました。

参加は、大久保仁美(昭和39年卒)、阿川雅俊・井田



筆者 前列右から5番目

由伸(同41年卒)、佐藤実(同43年卒)、藤崎隆司(同44年卒)、小林幹彦(同45年卒)、宮澤孝之・春日幸雄(同48年卒)のメンバーでした。



筆者 右端

師走のためか少ない参加でしたが、「次回も元気にOB会」を合言葉に、今後も部活動を続けていく所存です。追伸 私事ですが、市内体育館バスケット指導員を務めて30年になりますが(前号記 誤 1997→正 1995~2025)、まだまだ頑張ります。

## 同窓会の活動及び母校の支援について

### ◆令和7年度「あかね会定期総会」の開催

令和7年5月18日(日)11時から、八王子エルシィにおいて定期総会が開催されました。出席者は前年より多い40名となり、新入会員2名が出席されました。

第1部の定期総会は、萩原智弘庶務(昭和51年卒)の進行で始まり、浜中賢司会長から「母校は開校116年を迎え、第四高女、南多摩高校、中等教育学校へと発展してきた。今後、学校、PTAと連携して学校を支援し会員の相互親睦を図ってまいります」と挨拶がありました。



名誉会長の富川麗子校長からは「本年、伝統校の校長に着任し気の引き締まる思いです。南多摩は戦後、家庭科学習・ホームプロジェクトで先導してきた歴史があり、教員が米国を訪れそれを広め、米国からも教員が来た歴史があり、探求活動を実践した素晴らしい歴史がある」と、歴史をひもとく挨拶をいただきました。



総会の議長には藤森雄一常任委員(平成4年卒)が選出され、議事が進行されました。

令和6年度の事業報告、決算報告に続き、令和7年度の事業計画案、予算案が説明され、これらは異議がなく承認・可決されました。

役員改選案が提案され、14名の役員案が異議なく承認された後、浜中会長から「同窓会の円滑な運営に努めていきたい」と挨拶があり、齋藤博志副会長の閉会の挨拶で第1部は終了しました。

第2部は、昭和44年卒業の藤崎隆司さんにより「人生いろいろ~バスケットと日本画と」の演題で講演会が行われました。講師は、大学卒業後に都立高校の保健体育科教員に就き、都教員チームのバスケットボール部で国民体育大会に出場し、28歳で全国優勝を果たしました。40歳を過ぎた頃、同僚の美術科教員に師事し、日本画教室に通い絵画の道に進むようになったとのこ



とでした。

日本画は容易に上達せず苦  
 労したとの思い出を語り、「屋  
 久島・仏陀杉」「奥入瀬溪流」  
 「ひまわり」「美の町真鶴」な  
 どの20作品がスライドで紹介  
 されました。あっという間に講  
 演時間の40分を迎えました。

第3部の懇親会は、入沢副会  
 長及び松葉優樹庶務(平成24  
 年卒)の進行により始まりまし  
 た。挨拶は、浜中会長、母校副  
 校長の山下創氏、渡邊由紀氏からいただき、続いて川本  
 洋輔 PTA 会長から「滝島会長から会長を引き継ぎ、同窓  
 会と連携して学校、生徒を応援していきたい」とエール  
 が送られました。

新任の齋藤博志副会長の乾杯の発声により、懇親会が  
 始まり、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、会員の皆さん  
 の歓談が行われました。その後、新任会員のお二人の  
 紹介に続いて、挨拶をいただきました。2人とも在校時  
 に、和太鼓部で全国大会参加などの報告がされました。

続いて、常任委員でシンガー  
 ソングライターの SIO・小塩晶人  
 さん(昭和62年卒)がギター演  
 奏で、「僕らの町」を情感をも  
 って歌い上げられました。最後  
 に、新入会員の二人の音頭で、  
 校歌を高らかに合唱しました。

結びに、川崎恵美子会計監査  
 から閉会の言葉が述べられ、定  
 期総会は散会となりました。



美の町真鶴



### ◆南魂祭「117回文化祭」に行きました

南魂祭「文化祭」が、9月6日～7日の土日に開催さ  
 れました。文化祭にテーマは「感動の波」でした。

10時前に体育館で開催の「なんふいる・わーど」を  
 聴くために待ちます。体育館内は程良く冷房が効き、  
 300人以上の聴衆が整然と席に着き、90数人により4曲  
 を見事に演奏しました。アンコール曲は「タンゴ N05」  
 で、館内が手拍子で大盛り上がりです。

11時に同窓会役員6人が集合し、ランチルームで行わ  
 れた「あかね屋」の応援に行きました。10期生の10数  
 人が、お弁当と清涼飲料水の販売に大忙しです。常任委

員の伊東さんに尋ねると、30人の10期生が携わり、お  
 昼時でほとんどのお弁当は完売しましたとのこと。

参加した役員は、ランチルームでお茶などで談笑した  
 のち、「あかね屋」10期生に応援のエールを送ります。

そのあと、美術室、西  
 棟の4階の地学室などを  
 訪ね、展示物、催し物な  
 どを観覧しました。山下  
 副校長先生に校長室前  
 でお会いし「校長先生  
 によるしく」とお言付  
 けて、文化祭の訪問を  
 終わりました。



### ◆あかね会新年会が開催されました

令和8年1月25日(日)の12時から八王子エルシィで、  
 令和8年のあかね会新年会が開催されました。今回は、  
 学校、PTAのご来賓を迎えて、和気あいあいとした新年  
 会となりました。会員の高齢化が進み、2020年以降の新  
 型コロナの影響もあり、参加者が23人と少なめでした。

入沢修自副会長の進行で始まり、浜中賢司会長から  
 「120年以上の歴史のある同窓会は継続が大事で、同窓  
 会として生徒活動を支えたい」との話がありました。

来賓の富川麗子校長  
 先生からは「教育の柱  
 は探究活動にあり、本  
 校の伝統を受け継ぐと  
 ともに、探究から未来  
 を切り拓いていく」と  
 の挨拶がありました。



川本洋輔 P T A 会長からは「親父の会で活動した後  
 に昨年からは会長に就任。都立中高一貫校の集まりで、各  
 校で連携を取り活動を進めている」と話がありました。

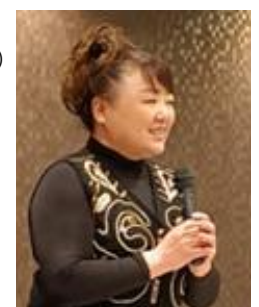
乾杯の発声は、元校長・元会  
 長の小林幹彦顧問(昭和45  
 年卒業)にお願いし「2つ  
 の高校のバスケット部の  
 顧問指導に専念し、会  
 の活動には久しく参加で  
 きなかった」との話のあ  
 と、乾杯がにぎやかに  
 行われました。



「新春インタビュー」は、学校の山下創副校長先生・  
 渡邊由紀副校長先生から話をしていただき、次に参加者  
 から、近況や今年の抱負などが語られました。

宴もたけなわ、久々に参加さ  
 れた伊達めぐみさん(平成2  
 年卒業)の音頭で、声高ら  
 かに「湧き水は街をめぐ  
 り・・・」と校歌が斉唱  
 されました。

結びに、齋藤博志副会長  
 から閉会の言葉が述べら  
 れ、あかね会新年会はお  
 開きとなりました。





# 刷新ing

お任せ下さい！印刷のすべて。

取締役副社長 野口 富巳子 (昭和35年卒)

有限会社 **三共社**

〒192-0041 東京都八王子市中野上町 2-29-1  
TEL. (042) 625-8325 FAX. (042) 625-8369  
<http://www.san-p.co.jp>



## 学校法人片柳学園

理事 黒須隆一【昭和35年卒】

東京工科大学

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

日本工学院北海道専門学校

東京工科大学附属日本語学校

[www.katayanagi.ac.jp](http://www.katayanagi.ac.jp)

## グループホーム びおら



高齢者認知症の方の共同生活  
介護を提供しています。

齊藤 万理子 (昭和44年卒)

〒192-0056 八王子市追分町9-4  
TEL.042-682-1301  
FAX.042-682-1305  
<https://www.biora.biz/>

あかね会の皆様へ

**SIO** シンガー・ソングライター  
(S62年卒 小塚品人)

「僕らの町 1000人コンサート2026」

**6月6日(土)**

開場 14:30 / 開演 15:30  
(終演17:00予定)

日野煉瓦ホール (日野市民会館)

料金 前売 3,000円  
当日 3,500円  
(小学生以下無料)

故郷のまちで 目指す1000人コンサート  
故郷の町をエンタで盛り上げたい! あなたも応援してください!

ISO 9001 認証取得

エコアクション 21 認証取得



## 黒須建設株式会社

代表取締役社長 黒須 光隆  
取締役 黒須 俊輔 (平成20年卒)

本社 〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12  
TEL 042-642-5331(代) FAX 042-642-5314  
<http://www.kurosu-kensetsu.co.jp>

**不動産プラザHAGIUDA**

代表取締役  
萩生田 俊一  
(平成元年卒)

50th ANNIVERSARY

**萩生田観光株式会社**

〒192-0355 八王子市堀之内三丁目 29 番地 20  
TEL : 042-675-3111 MAIL : [shun@hagiuda.co.jp](mailto:shun@hagiuda.co.jp)

税金のご相談は

## おざわ会計

税理士 小澤 麻理 (旧姓 小野島 平成5年卒)

TEL 042-663-5411 **おざわ会計 八王子**  
〒193-0832 八王子市市千人町-10-1  
Email [ozawamari@ozawakaikei.com](mailto:ozawamari@ozawakaikei.com)

豊田駅北口徒歩2分

## あさひ耳鼻咽喉科クリニック

谷合 隆 (昭和44年卒)

〒191-0062 日野市多摩平1-4-19 藤ビル 3F  
TEL : 042-587-4800

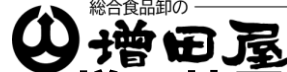
医療法人社団 大島会

## 大島耳鼻咽喉科・気管食道科クリニック

院長 大島 清史  
大島 富子 (昭和25年卒)

〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9  
TEL : 042-642-8012  
<https://www.oshima-ent.com/>

冷凍食品で楽しい給食 (病院、施設の給食品専門問屋)



## 株式会社 増田禎司商店

代表取締役 増田太郎 / 増田敦子 (旧姓 土屋) (昭和34年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 1415  
TEL:042-654-2222 FAX:042-654-5049  
<https://masudaya1965.com/>  
mail: [info@masudaya1965.com](mailto:info@masudaya1965.com)

一級建築士事務所

## 株式会社 浜中企画

浜中 賢司 (昭和44年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 3411  
電話:042(654)4325 FAX:042(654)6128  
mail: [hamanaka@tokyo.email.ne.jp](mailto:hamanaka@tokyo.email.ne.jp)

コンピュータソフト開発&運用

## (有)ライズ

代表取締役 中村 晋也 (昭和53年卒)

〒192-0066 八王子市本町30-6 (N-Twoビル3F)  
電話:042-620-5425 FAX:042-689-4149

**ホテルベル鐘山にワインショップを併設!**

山梨ワインと家庭料理  
ホテルベル鐘山

プレストパール株式会社  
プレストパール  
Blessed Pearl Co., Ltd.

TEL **0555-24-8888** 山梨県富士吉田市 上吉田東 9-8-10  
(有)オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局 **伊達めぐみ** 平成3年卒業

LPガス・リフォーム・ウォーターサーバー

**MARUI GAS TOKYO**  
マルキガス東京株式会社

代表取締役 滝島 徳久  
滝島 凜夏 (令和5年卒)

<https://mgtokyo.jp> 東京都八王子市橋原町542-1 042-622-3772

透明で目立たないインビザライン矯正  
医療法人社団 新健会  
**健にこここ歯科・矯正歯科**

院長 新藤 健太郎 (平成4年卒)

〒193-0801 八王子市市川口町 1559-3  
TEL : 042-654-5014  
<https://www.kenico-dental.com>

おうちの悩みまるっと解決! 町の水道屋さん

**株式会社 市川工業所**

専務取締役 野澤 経子 (旧姓 市川) (昭和55年卒)

〒192-0065 八王子市新町8-4  
TEL : 042-642-4808 FAX : 042-642-6829  
[corp@ichikawa-works.co.jp](mailto:corp@ichikawa-works.co.jp)

法あるところに救済あり!

**司法書士・行政書士 空衣事務所**

相続登記はお早めに!  
代表 入沢 修自 (平成5年卒)

〒206-0011 東京都多摩市関戸4-23-1 関戸ビル301  
電話: 042-389-5570 Fax: 042-389-0755  
<https://www.sorai-law.com>

婚活カウンセラー・スペシャリストのいる  
結婚相談所

**Pleasant 結婚相談所**

代表 山根 博史 (旧姓 山田) (昭和59年卒)

〒206-0001 東京都多摩市和田 502-17  
TEL : 080-9291-4059  
<https://www.pleasant-konkatsu.jp/>

診療時間 [午前] 9:30~13:00 [午後] 15:00~19:00 (土曜は18:00まで)

京王八王子駅西口出口すぐ前  
**糠信歯科医院**

院長 糠信 安宏 (南多摩中等教育学校歯科校医)  
糠信 和代 (昭和29年卒)

八王子市明神町4-2-9 昴ハイツ2F (京王八王子駅西口出口前)  
電話: **042-642-3131** [休診日: 木曜・日曜・祝祭日]

**伊藤税務会計事務所**

税理士 伊藤 正啓  
伊藤 幸子 (昭和32年卒)

〒192-0045 八王子市大和田町3-6-21  
TEL: (042)642-2719 FAX: (042)642-5034

**NAKANO**

学校法人 八王子中村学園  
なかの幼稚園

日本一幸せな幼児期を  
過ごしてほしいと願ってます。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13  
TEL: 042-622-3001・FAX: 042-624-3103  
<https://www.nakano-kd.ed.jp/>  
前理事長 中村 健 (昭和46年卒)

損害保険、生命保険代理店  
代理店を通じて皆様のネットワーク作りのお手伝いします。

**有限会社 保険のイツツ**

一宮 龍之  
(旧姓 中川 昭和45年卒)

TEL : 042-587-3808 FAX : 042-587-3813  
mail : [y-its3808@viola.ocn.ne.jp](mailto:y-its3808@viola.ocn.ne.jp)

地図で見る学校周辺の歴史 ー旧甲州街道ー

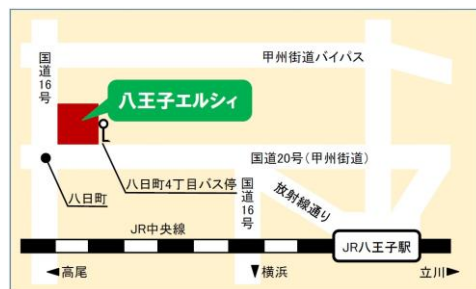
学校南側の甲州街道を西に 300mほどのところに旧甲州街道への入口がある。先ごろこの角に案内板が設置されているのに気がついた。現在、甲州街道は学校の南を大和田橋に向かうが、江戸時代は現在の市守神社を北に折れ学校の北を通っており、ここには一里塚があった。現在一里塚跡には石碑があり江戸から 12 里とある。「女学校」は創立時の「府立第四高等女学校」である。



# 「令和8年度 南多摩同窓会あかね会 定期総会」について

南多摩同窓会「あかね会」は、同窓会の規約で、毎年5月の第3日曜日に八王子市内で定期総会を開催することとしています。

定期総会では、事業計画や予算案を審議し承認を得たのち、第2部で卒業生を講師とした講演会を開催します。メインの懇親会では、新入会員を紹介し、懇親会を開催します。定期総会は、現在の母校を知る機会であり、共に学んだ仲間との再会、先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。



八日町交差点角（八日町4丁目バス停下車）

## 令和8年度定期総会

【日時】令和8年5月17日(日)11時～

会場受付 10時30分～

【場所】八王子エルシィ【JR八王子駅下車バス5分】

八王子市八日町6-7 ☎042-623-2111

【懇親会費】5千円（学生2千円）（会費は当日徴収）

【プログラム】

総会 11時～11時40分

事業報告・決算、事業計画・予算その他

講演会 11時50分～12時30分

高木秀樹さん（昭和57年卒業）

テーマ「歌舞伎への招待」

歌舞伎・文楽の同時解説放送「イヤホンガイド」の解説

者。歌舞伎・日本舞踊の制作に携わる。NHK教育テレビ『文楽鑑賞入門』講師担当。NHK文化センターで歌舞伎と文楽の講座を担当。

懇親会 12時40分～

昼食、懇談、新入会員の紹介、校歌斉唱等

【申込方法】5月8日(金)までに、次のQRコード読み取り又は電話でお申込みください。

(電話)

入沢 修自 080-5075-5570

瀧口 陽子 090-9963-6073



## 「会員通信」に応募ください

学校時代の思い出や近況報告を、書いてみませんか。会報「みなみたま」では会員の投稿をお待ちしています。1頁は1700字程度（写真2枚の場合）、半頁は700字程度（写真1枚）で、8名程度の投稿をお待ちしています。

原稿は、Word版は [mail@akanekai.org](mailto:mail@akanekai.org) に、原稿用紙は（〒192-8562 八王子市明神町4-20-1 都立南多摩中等教育学校内 あかね会担当あて）にお送りください。

## 会報の広告にご協力ください

広告料は、母校の学校支援等に使用させていただきま。広告は会報に掲載するとともに、同窓会ホームページに1年間掲載します。広告料金は名刺サイズ（45mm×92mm）で、カラー1枠が2万円、白黒1枠が1万円です。24枠限定で先着順ですので、よろしくお願ひします。

申込は、[mail@akanekai.org](mailto:mail@akanekai.org) までお願ひします。

通信の応募、広告申込は、本年11月末まで。

## 住所変更の際には、同窓会にご一報ください

毎年、会報を発送すると、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、同窓会の名簿担当にご連絡ください。

【メール】 [meibo@akanekai.org](mailto:meibo@akanekai.org)

【郵便】 〒192-8562 八王子市明神町4-20-1

都立南多摩中等教育学校内 あかね会名簿担当あて

### 編集後記

15年ほど前、先輩から昭和初期に本校で使用していたという地理の教科書を見せていただいたことがある。教科書の執筆者は山崎直方と記憶している。山崎はこのころ日本地理学会を創設した自然地理学の第一人者で教科書は当時の先端的な学説が掲載されており、第

四高女ではこのような授業がされていたのかと驚いた。今号では、富川校長先生に昭和初期に本校に赴任し、家庭科をとおして全国に探究型の学習を広めた仙波千代先生について紹介していただいた。今年で創立117年を迎える南多摩には、先端の教育を目指す教師たちの歴史があったことを忘れてはならないと思う。（菱山）